



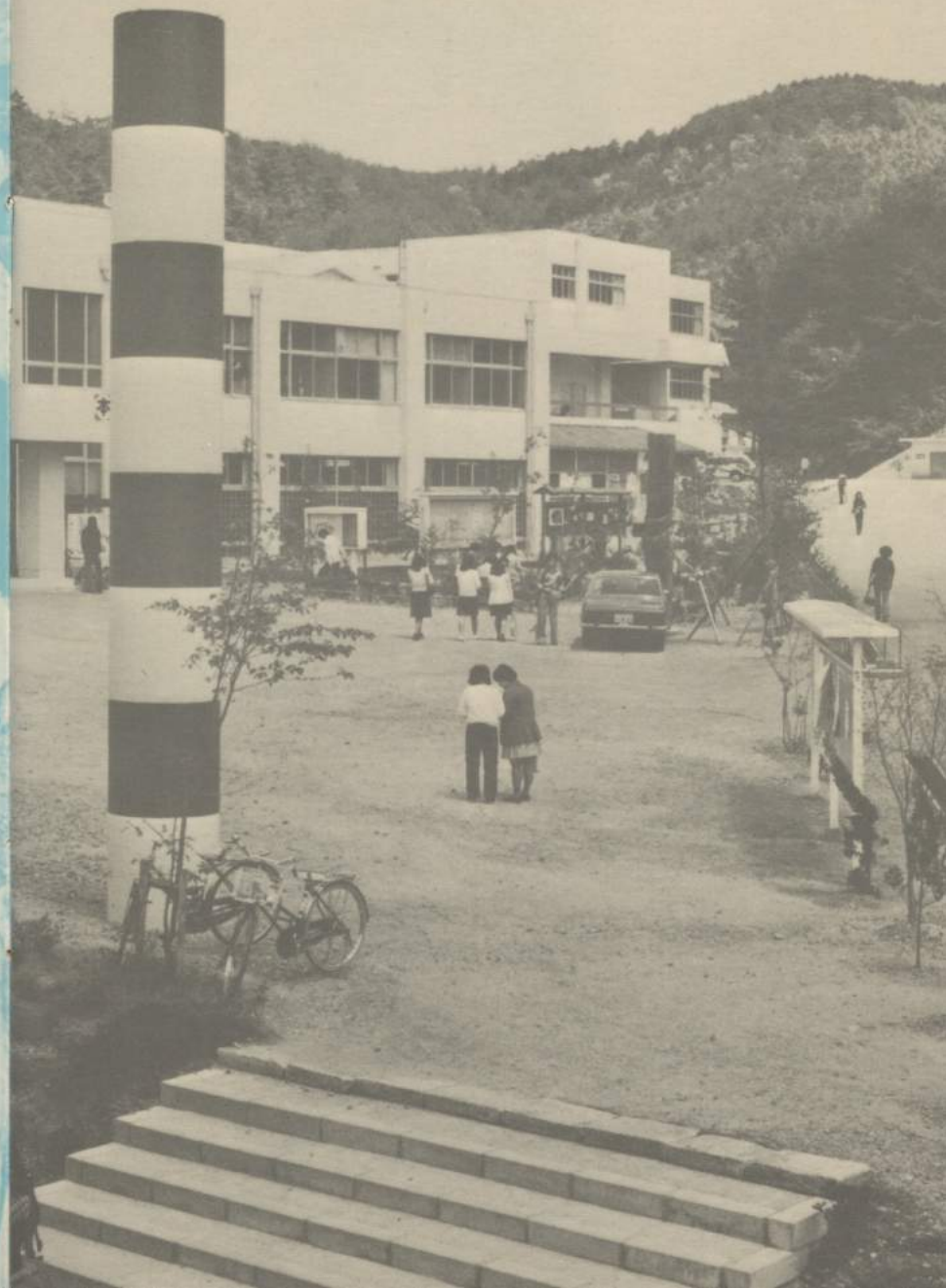
75年度入学案内

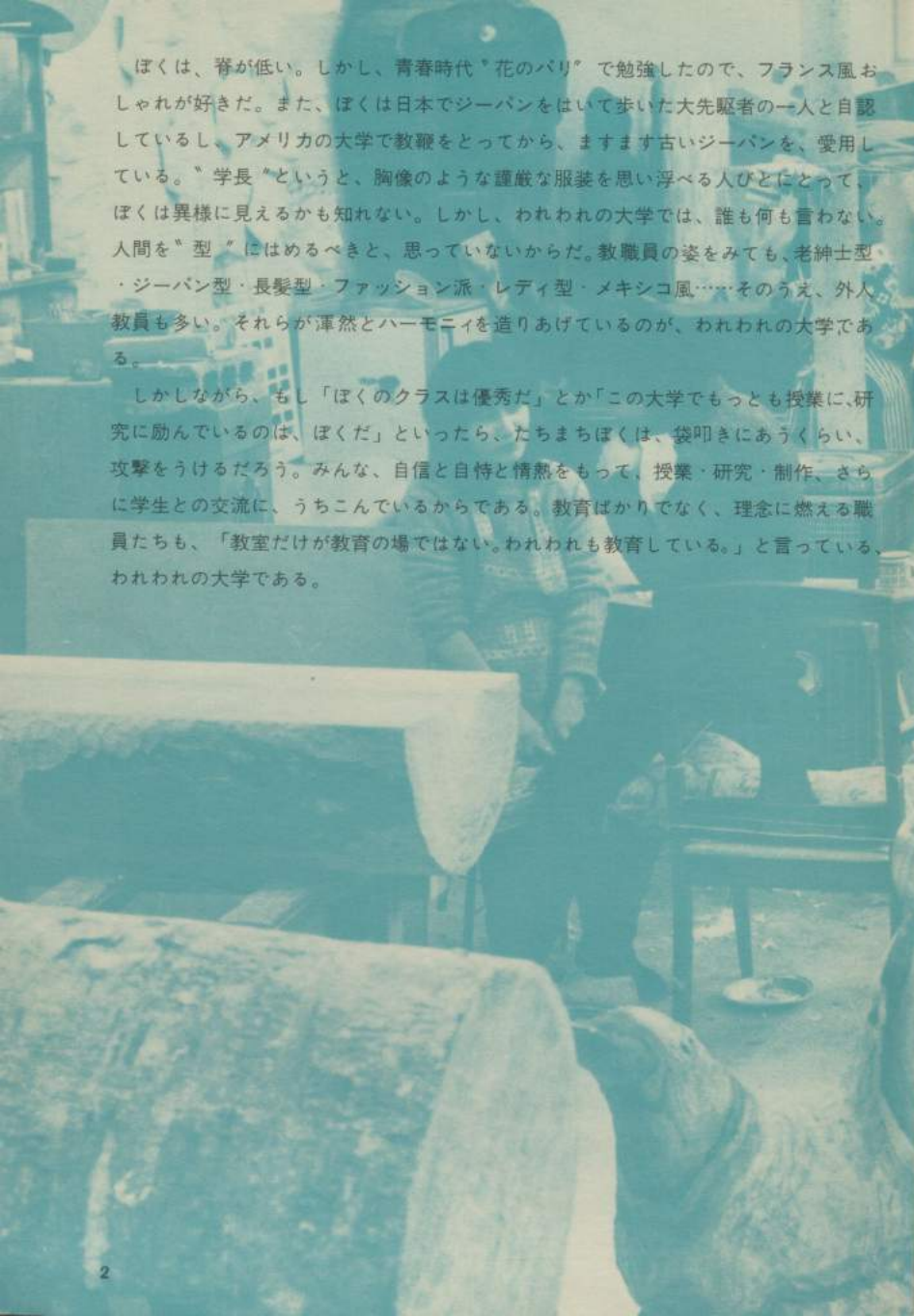
# 京都精華短期大学

《男女共学》

禁  
帯  
出


本学志望のみなさんへ	2
学科課程	4
●一般教育	5
●英語英文科	6
貿易英語コース	7
セクレタリー（秘書）コース	7
ガイドコース	8
英米文学コース	8
国際文化コース	9
英語英文専攻科	9
●美術科	12
絵画コース	12
デザインコース(デザインクラス・マンガクラス)	13
染織コース	15
立体造形コース	16
美術専攻科	17
アッセンブリー・アワー	20
座談会	25
寮生活	30
FACEFACEFACE	32
教員組織と担当科目	54
'75年度 英語英文科募集要項	64
'75年度 美術科募集要項	66
学費および受験生への諸注意	68
卒業後の進路	70
図書館司書課程・教職課程	71
大学案内図	72





ぼくは、脊が低い。しかし、青春時代“花のバリ”で勉強したので、フランス風おしゃれが好きだ。また、ぼくは日本でジーパンをはいて歩いた大先駆者の一人と自認しているし、アメリカの大学で教鞭をとってから、ますます古いジーパンを、愛用している。“学長”というと、胸像のような謹厳な服装を思い浮べる人びとにとって、ぼくは異様に見えるかも知れない。しかし、われわれの大学では、誰も何も言わない。人間を“型”にはめるべきと、思っていないからだ。教職員の姿をみても、老紳士型・ジーパン型・長髪型・ファッション派・レディ型・メキシコ風……そのうえ、外人教員も多い。それらが渾然とハーモニーを造りあげているのが、われわれの大学である。

しかしながら、もし「ぼくのクラスは優秀だ」とか「この大学でもっとも授業に、研究に励んでいるのは、ぼくだ」といったら、たちまちぼくは、袋叩きにあうくらい、攻撃をうけるだろう。みんな、自信と自恃と情熱をもって、授業・研究・制作、さらに学生との交流に、うちこんでいるからである。教育ばかりでなく、理念に燃える職員たちも、「教室だけが教育の場ではない。われわれも教育している。」と言っている、われわれの大学である。



2 このような大学であるから、“自由”と“鍛練”と“若さの活気”にあふれている。立地条件は、古都も洛北にあり、春はうぐいすがなき秋は紅葉が美しい山すそ。ただし、警告しておきたいのは、まるで工場のベルト・コンベアーの上にならべられて加工される製品のように、この大学に入れば、努力しなくても自動的に卒業式までに、英語英文科なら英語が、美術科なら美術がうまくなる一などと、安易に考えてはいけないことである。Education（教育）のもともとの意味は、その人の裡にもっている素質や才能を、外に(Ex)に引き出す(duco)こと。ぼさぼさ眠っているような者や、メッキのような箔(はく)づけだけがほしいと思う者に、どうしてほんとうの教育ができるだろうか。違いますか？むしろ、われわれの大学で、未知の自分の探究を、試みるべきだ。

それに、教育とは、一方的に与えられるものでなく、学生と教職員との息のあった相互の“協同作業”だ。みなさん！あなた方と夢ある大学を創りましょう！ただ、私大の宿命で授業料が安くないのが、残念なのですが……。

